

平成24年11月12日

食品安全委員会

除草剤グリホサート耐性トウモロコシ NK603 系統の 毒性発現に関する論文に対する見解（案）

平成24年9月、遺伝子組換え技術を利用して作られた除草剤グリホサート耐性トウモロコシ NK603 系統（以下「トウモロコシ NK603」という。）について、ラットを用いた2年間の長期毒性試験を行ったところ、毒性が認められたとする論文(Séralini *et al.* Long term toxicity of a Roundup herbicide and a Roundup-tolerant genetically modified maize. Food Chem. Toxicol. 2012;50:4221-31)が公表されました。

本論文について、食品安全委員会遺伝子組換え食品等専門調査会で審議が行われ、別紙の見解が食品安全委員会に報告されました。

食品安全委員会は、この論文の試験内容はトウモロコシ NK603 がヒトの健康に悪影響を及ぼすかを判断する基本的な試験デザインを欠いており、結論を導くには不十分であると考えています。

その理由は、主に次の2点です。

- ①発がん性があると判断するためには少なくとも1群50匹で試験を行うことが国際機関で定められていますが、この実験では各群のラットの数が10匹であること
- ②遺伝子組換えトウモロコシでない餌を与えたラットが1群しか用意されていないため、群間での比較ができないこと

具体的には、著者らは、長期飼育で下垂体及び乳腺腫瘍が発生しやすい系統のラット(Sprague - Dawley 系)で2年間(ほぼ一生)実験を行いました。各群のラットが10匹しかいないため、途中でがんなどの病気になったり、死んでしまったりした原因がトウモロコシ NK603 を含む餌によるものかどうかわからなくなっています。

また、この実験では11%、22%、33%の割合でトウモロコシ NK603 を含む餌をラットに与えています(3群)、遺伝子組換えでないトウモロコシを与えたラットは1群(33%)しかありません。そのため、それぞれ同じ割合のトウモロコシを与えた群同士を比べることができないので、トウモロコシ NK603 の影響かどうかわからなくなっています。

トウモロコシ NK603 の食品としての安全性については、厚生労働省薬事・食品衛生審議会において審議が行われ、その結果、ヒトの健康を損なうおそれがあると認められないと判断されており、これまでその判断に影響を与える新たな知見は得られていません。

以上の理由から、本論文の内容はトウモロコシ NK603 の安全性を再評価する必要性を示唆する知見とはなり得ないと考えています。

食品安全委員会では、引き続き、情報収集を行っていきますが、現時点では改めて食品安全委員会として食品健康影響評価を行う必要はないと考えています。